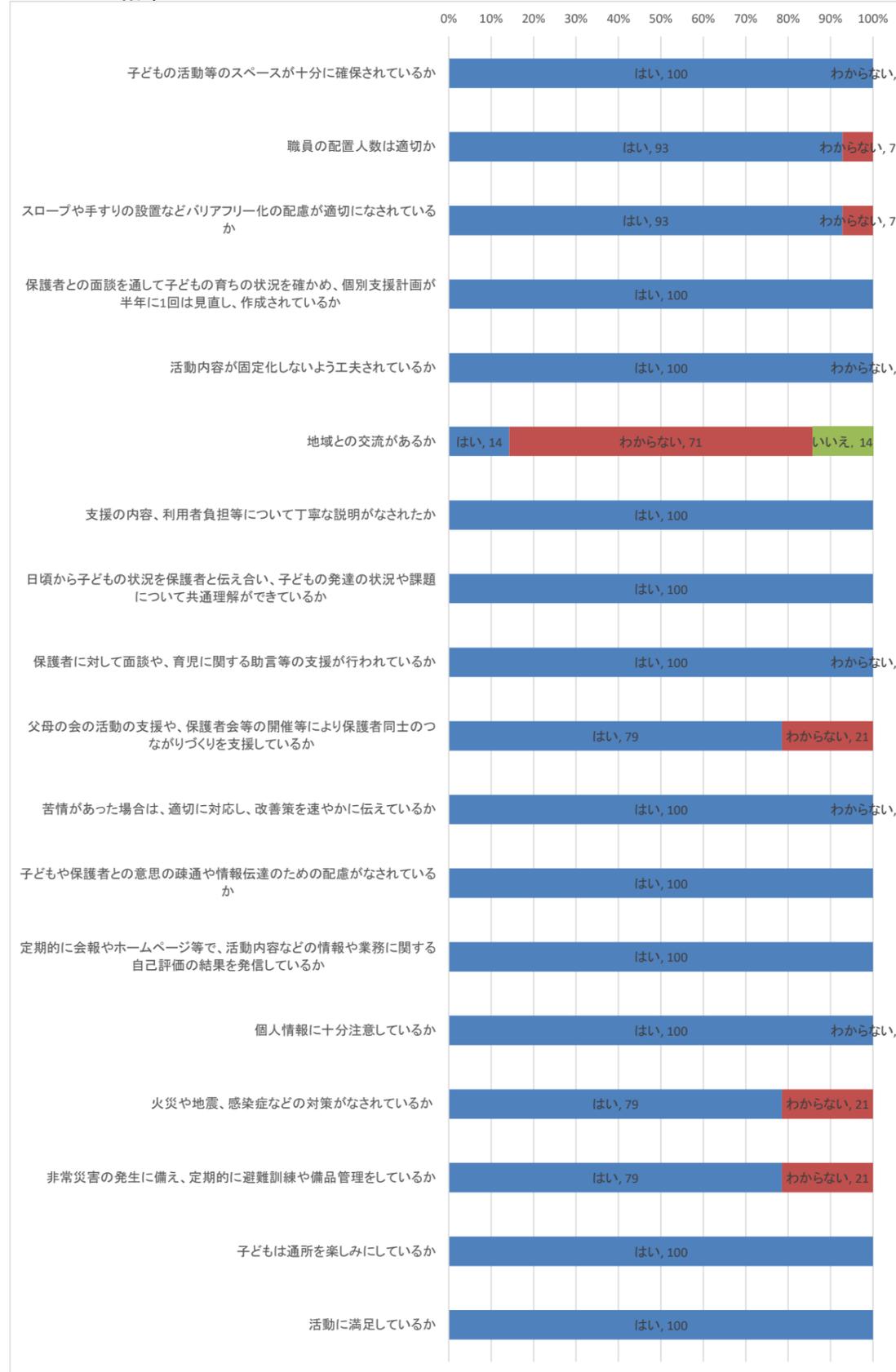


# 2021年度放課後等デイサービス事業者 自己評価 検討結果(わんぱくクラブ三軒茶屋)

## アンケート結果

保護者(利用者)・・・26名 回答・・・14名 回答率・・・53%



## 改善点など

	工夫している点	課題	改善目標
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス流行に伴い、外遊びを自粛した。その分、室内で体を使った遊びを提供・設定し、新しい絵本や遊具を増やし、室内で過ごしやすいような環境設定を行っている。</li> <li>・助成金を活用し、利用者の身長に合わせたイスを購入した。</li> <li>・求人媒体を精査し、スカウト機能などの活用を行い、かつ求職者の面接及び実習フローを作成し、質の高いスタッフの確保を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有資格・同業種経験のあるスタッフ採用が進んでおらず、より高い質・専門性のある保育体制を整えていきたい。同時に、報酬単価の低い中規模事業所として、安定した事業運営を行うために、有資格者の加配加算取得を目指す。</li> <li>・外出自粛のため、室内で過ごすための小型遊具は少しずつ揃えているが、室内で体を使って遊べる大型の遊具は用意できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育や福祉従業者専門の求人媒体を活用する。資格保有者・経験者に対して魅力的な労働環境・条件を整えていく。</li> <li>・大型遊具については、スペースに限りがあるので、収納・片付けのできる組み合わせ型の遊具を選定する。高額になる遊具については、助成金等活用する。</li> </ul>
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週末職員ミーティングを行い、ヒヤリハットや情報共有を行い、翌週のスタッフミーティングで、全スタッフに共有を行っている。</li> <li>・新規職員には、実務や活動のリーディングなど、ベテラン職員が指導を行い、段階的にスキルアップできるように育成している。</li> <li>・法人内で、職員や保護者を対象にしたオンラインの研修を企画し、実施している。</li> <li>・外部の研修情報をまとめ、スタッフ全体が日ごろ閲覧できるようなファイリングをし、積極的な参加を促している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内での職員、アルバイトスタッフの支援技術向上・利用者理解を目的とした学習会・研修会の実施が十分に行えなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育前後のスタッフミーティングの時間を活用し、短時間のケース検討の機会を月1回設定する。</li> </ul>
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日のミーティングで、活動予定や留意事項をスタッフ間で共有している。活動予定は、日案に記載し、スタッフがいつでも確認できるようにしている。保育後もミーティングを設け、保育や利用者の振り返りを行っている。</li> <li>・集団遊びを毎日行っており、来所する利用者の認知や身体の発達状況も踏まえて、参加しやすい内容を企画している。</li> <li>・新型コロナウイルス流行のため、おやつ提供のあり方について検討したが、利用者の精神安定の面から、机の配置や利用者・スタッフの配置を工夫し、提供した。</li> <li>・活動で行っていた歌やダンス、手遊びなどの動画配信やオンラインによる対面のクイズゲームなどの在宅支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の自粛に合わせて、勤務人数を調整した。そのため、保育後のミーティングの人数が少なくなり、情報・支援内容の共有に難しさを感じた。</li> <li>・在宅支援での動画の作成ベースが落ちた。オンライン等でカバーはしているが、在宅支援をより利用者・保護者にとって有益なものになるような工夫を考えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在もとっているミーティング記録の要点をまとめた共有資料を作成し、翌日の打ち合わせで周知する。</li> <li>・本来の保育の醍醐味である集団活動をオンラインでできる形にし、自粛している利用者へ案内する。また、自宅でもできる活動を企画し、実際の保育の様子を動画で撮影したものを教材として活用する。</li> </ul>
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡ノートを来所時に確認している。必要な情報は職員・アルバイトで共有している。活動内容、その日の様子などを書くことで保護者との共通理解を行っている。</li> <li>・半年に1回保護者と個別面談を行い、わんぱくの様子を伝えると共に、家庭や学校などでの様子を伺ったり、保育への要望を聞き取ったりしている。活動の記録を閲覧する機会を設けている。</li> <li>・オンラインアプリを活用し、保護者会を開催した。保育の近況や報酬改定について、運営で配慮していることなどについて全体に伝えている。</li> <li>・保護者との親睦会を通して、交流を進めている。(※新型コロナウイルス流行のため、今年度は未実施)</li> <li>・施設のおたより「わんぱくだより」や、広報誌「わんぱくプレス」にて、保育の内容を報告している。</li> <li>・ケア会議・支援会議へ積極的に参加した。</li> <li>・関連機関職員のボランティア受け入れを行い、情報交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者参加の行事を見送った。</li> <li>・施設だよりの発行回数が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインの交流会や研修会へ積極的に参加、また主催する。</li> <li>・YouTubeや、オンラインアプリを活用して、保護者が保育の様子を見てもらえるような場を設定する。</li> <li>・施設だよりの発行回数を増やし、利用者・活動の様子を定期的に紹介する。</li> </ul>
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約書・重要事項説明書を基に、利用者負担金などについて説明をしている。</li> <li>・車輛利用に関して同意書を作成し、運用方法について同意を得ている。</li> <li>・利用に関する要望や希望について、利用の可否とその理由について、対面や電話にて説明を行っている。</li> <li>・写真販売のサイトを活用し、利用者や活動の様子を保護者に見てもらえる形とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防のため、利用自粛している方に対して、定期的な連絡を取ることができていなかった。</li> <li>・保護者会は、1学期しか行えなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅支援を希望されていなくても、月に1回程度電話やメール等で近況を確認する。</li> <li>・学期に1回(年3回)オンラインアプリを活用しての、保護者会を行う。保育の内容を始め、利用に関わる情報提供や非常時対応などの説明を行う。保護者の要望を聞き取ったり、保護者同士の交流の場にした。</li> </ul>
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入会時や定期的に行うアレルギー・てんかん調査表に基づき、非常時の対応について把握している。</li> <li>・災害備蓄品を置いている。定期的に点検し、年間で予算を決めて購入している。</li> <li>・建物内の連絡会に出席し、緊急時の対応の共有、避難訓練への参加を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保管スペースの確保が不十分ため、非常食・水の量が心もとない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉庫等整理し、保管スペースを確保する。また、利用者が災害時でも食べやすい非常食を購入する。</li> </ul>